

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2835 号	氏名	大部 恭子
審査担当者	主 査	山 岸 昌 一 (印)	
	副主査	山 田 研 太 郎 (印)	
	副主査	池 田 久 博 (印)	
<p>主論文題目 : Ezetimibe combined with standard diet and exercise therapy improves insulin resistance and atherosclerotic markers in patients with metabolic syndrome</p> <p>(標準的な食事療法と運動療法を併用したエゼチミブ内服治療は、メタボリック症候群を有する患者において、インスリン抵抗性と動脈硬化因子を改善する)</p>			

審査結果の要旨 (意見)

本研究は、田主丸検診を利用した薬物の介入試験である。これまで、田主丸検診では、観察研究が主として行われており、初めての試みと言える。

その結果、脂質低下改善薬であるエゼチミブによって、インスリン抵抗性が改善することを示された。

生活習慣病の治療を考える上で臨床的に重要な論文であり、予防医学的見地からも、学位に値する知見と考えられる。

論文要旨

エゼチミブは、小腸壁にある小腸コレステロールトランスポーターを阻害して、胆汁性および食事性コレステロールの吸収を約 50%低下させる薬剤だが、インスリン抵抗性に及ぼす効果については良く分かっていない。そこで、田主丸検診を受診した住民のうち、脂質低下薬未服用者でメタボリック症候群である患者を選び出し、エゼチミブ 10mg を 6 ヶ月間服用することにより、本剤がインスリン抵抗性に及ぼす影響を調べた。

無治療のメタボリック症候群の中から、同意が得られた 61 名に対し、エゼチミブ通常量 10mg を毎日服用してもらい、ベースラインから 6 ヶ月後の身体変量、血圧、採血によるデータを服用前後で比較した。服用前に比べ、服用後の体重、BMI、収縮期及び拡張期血圧、中性脂肪、LDL-コレステロール、non-HDL コレステロール値、そしてインスリン抵抗性の指標である HOMA 指数(HOMA-IR)は有意に低下し、HOMA-IR の減少は、他のメタボリック症候群のコンポーネントと独立していたことが分かった。エゼチミブは、体重や脂質値の改善のみならず、インスリン抵抗性や血圧を改善させ、インスリン抵抗性はメタボリック症候群を構成するコンポーネントと独立しており、他の脂質低下薬の影響がないことから、エゼチミブ単剤でもインスリン抵抗性を有意に改善させることが示された。